

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(玄界灘ユニット)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は農業園にあり、施設の前には広々とした田んぼが広がり、田植えや稲刈りなど四季の移り変わりを感じることができます。玄関を入ると広い食堂兼居間があり、食事をしたり会話を楽しんだり、自分の時間で自由に過ごしていただいています。外に出かける行事として、1月は地域の神社に初詣に行きます。おみくじを引くのが楽しみです。3月は町内の桜の名所に見学弁当持参で出かけます。梨の花も見学します。梅雨時は紫陽花見学に出かけます。館内行事は、夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会を実施しています。利用者様の笑顔や笑い声が素敵です。日頃はご家族や友人、知人の訪問が多く、ご家族とのつながりを大切にしています。利用者様が安心して生活できる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して15年、入居者の入れ替わりや家族介護の高さ等に視点を置いた入居、入退院等難しい現状の中で、個々の違いを把握し入居者に寄り添いながら、ユニット同士が垣根を超えた日常を支援している。ホームに居ながら十六夜の綱引きを見学したり、田畑の移ろいに季節を感じることもできる環境にあり、開設当初からの入居者も車いすを自操しながらの生活ぶりに、職員のケア力の高さが表れている。管理者はリーダーシップを発揮するとともに、職員との話し合える環境によりケア向上に努め、入居者と近い距離でコミュニケーションが図れることや入居者個々が“らしく”過ごせる場所がグループホームであるとして捉えた支援に職員の意識の高さも確認できるホームである。入居者の思い(買い物等)の実現に努められており、今後も寄り添ったケアに大いに期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は理解しているが、理念に基づいた実践はあまり出来ていないと思う	代表の思いの詰まった理念を継続し、入居者を中心に検討しケアに反映させている等、理念の意義や地域密着型事業所としての役割認識しているが、地域との共存共栄を謳うなかで外に向かった活動は困難な状況にある。	入居者の入れ替わりや家族介護の高さ等に視点を置いた入居、入退院等難しい現状の中で、個々の違いを把握し入居者に寄り添いながらの日常生活である。今後も理念の実践に繋がるよう、地域の中で何が出来るか全員で検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての繋がりや殆ど無く、地域交流は限られている	田畑が望める環境にあり、畑仕事の方々との歓談や祭りの子ども神輿がホームを訪れ、ホーム前では十五夜の綱引き等が行われ、ここに居ながら楽しむ環境にある。地域の消防団へはグループホーム本来の姿勢等を発信し、寄附等も行っている。	敬老会への参加予定はあったものの、出かけることが出来なかったようである。ホーム近くからの入居者もおられ、のんびりして過ごすホームであることを発信したいとの意向である。今後もホームに地域住民に足を向けた頂くよう声かけを継続いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の家族へのアドバイスなどは出来ているが、地域の人々への支援等は出来ていない	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を行い、その場で出た意見をもとに日々のサービスに活かしている	定期的に行われる運営推進会議は、入退居や職員の出入り、介護保険の説明等の他、外部評価についての目的等を説明。参加委員との活発な意見交換が行われ、メンバー構成(増員)等の提起や開示方法等の意見等有意義な会議である。運営推進会議への参加呼びかけや内容等“やすらぎの里たより”で発信し、共有化としている。	家族の参加は少ないように見受けられる。メンバーを増やしたらどうかという意見も出されており、検討されることを望みたい。この会議での意見や提案等を生かしたホーム運営に大いに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新の認定調査日を決める時はお互いの都合の良い日を話し合って決めている。	介護認定調査調整や、防災訓練の設置に向けた相談、経済問題(生保)での相談(役場担当者の訪問や、ホーム側も介護計画書提出に向く等連携を図りながら入居者を支えている。また、外出傾向の高い場合の対応として施設について相談し適切なアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関など3か所の出入り口は常に開放しており、自由に出入りできる。身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外の研修とともに運営推進会議後に身体拘束適正化委員会として勉強会を開催。更に、自己点検シートで各々が振り返り、プライバシー・言葉使い・行動の制限や説明の無い介護、またグレーゾーンについて(スピーチロック等)全職員で改善策を話し合い、ケア統一を図っている。帰宅願望や外に出かけたいとの思いの強い入居者に職員は寄り添い、一緒に外に出たり、買物等に出かける等外出の目的を把握し、支援している。	道路に面したホーム、及び玄関もオープンであり、今後も所在確認を徹底頂きたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成30年度からの改正により特に力を入れて何度も職員会議時に学び、職員もお互いに気をつけて介護を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について職員会議で勉強会を行ったが、実際活用する機会がない為しっかり身につけていないと思うので、今後も勉強していく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明をしている。改定があった場合は家族に説明を行い、書面にて承諾を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に要望書を設置しているが利用される家族は居られない。要望は直接職員や管理者に話されるので、その都度、管理者、ユニット職員で話し合っておりより良いケアに繋げている	家族に毎月ホーム便りで状況を発信し、何でも言い合える関係が重要であることを説明している。家族の訪問時に要望等を聞き取りし、希望等ユニット毎に話し合う体制であり、家族との良好な関係を築いている。入居者も管理者に直接相談されるケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで意見や提案を出している	毎月の職員会議は夜勤専門の職員も参加し、ユニットごとの報告とともに、意見交換、及び研修会の報告により情報を共有している。代表による全体会議も不定期ではあるが開催されている。管理者を中心として風通しのよい環境が作られ、リーダーの声や職員の意見等管理者による代表への代弁により、サービスに反映させている一方で、リーダーシップを発揮しながら職員のストレス軽減に努力されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表作成時には各自が希望する夜勤日や年休等希望に添った勤務表作成で、働きやすい職場になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や、職員会議時の勉強会への取り組みが行えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム八代ブロック会では、お互いの了解があれば訪問して交流できるようになっているが、当施設では訪問する機会はない		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を傾聴するとともに、家族からの情報を得て本人に安心して頂ける環境作りを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には利用者の現在の状況を細かく伝え、家族が不安に思っている事、要望等、言いやすい環境関係作りを心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入以前になるべく情報を集め必要な支援など本人や家族へ提案し、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存機能を活かした支援を行い、共同生活を共に築いて行けるような関係作りを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも本人の状態を説明しながら、本人と家族の関係が離れないよう、一緒に考えることで本人を支える者同士の関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から本人の交友関係や仕事の内容等情報を得ている。家族や友人が面会に来られたら、ゆっくり話ができる場所を提供している	毎日訪問される家族や遠方より定期的に帰省し、ホームを訪ねられる家族、歩いて衣料品の購入に出かける入居者、訪問される家族との外食、お盆の帰省、墓参等生活歴を把握しながら、馴染みの関係性を継続させている。郵便局での出し入れ等社会性も継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を理解し、トラブルにならないように席の配置を考えている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退居の場合、週に2回程度は病院訪問し、家族の相談などに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えることが出来ない人に対しては、その人の立場に立って考えている。できる限りその人らしい生活が出来るよう支援している	日常のケアの中で、入居者の声を聞き取り、家族に代言したり、自己表現の難しい方には、表情・行動で推察、発語が難しい方には、うなづきを意思表示と、目や表情での推察等、入居者の思いを引き出すよう努力している。玄関に腰を掛けられる行動が、家に帰りたいとの発信ではないかと推察しと家族に連絡し、協力して頂いた事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴などの情報収集を行い、暮らしやすく過ごしていただくために努力している。また他サービスの利用がある方には、そのサービスの情報も細かく徴収している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の状態を観察し、他職員と情報交換しながら現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言動や行動を把握し、他職員の意見も取り入れて、その時の体調、状態に合わせたモニタリングを行い、家族に相談し、現状に合った介護計画を作成している	家族の訪問時を捉え、希望等を把握し、入居者とのコミュニケーションにより思い等を見逃さない努力をしている。モニタリングによりプランの継続可否を見極め、日課表のより援助に対する留意事項を明確にし日々のケア統一としている。介護認定更新に合わせた見直しや、身体の悪化防止に向けた担当者会議、退院による無直し等、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や気づき等を申し送り、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体状況は変わっていくので、その時に応じたサービスを提供できるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人に必要な地域資源があるのか把握し、本人に適した支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に変化があった時は、家族と本人の希望を一番に考え、かかりつけ医と相談、協力しながら支援している	現在、全入居者が協力医である地域の医療機関からの月1度の往診を受けている。必要時にはこちらから受診したり、夜間帯には職員送迎にて担当医師が訪問するなど24時間医療が受けられる体制である。歯科や皮膚科など他科受診には職員が付き添い、結果は電話や面会時に家族に報告して入居者の現状を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	起床時と午後2時のバイタル測定で日々の状態を観察、把握し、気づきや状態変化を細かく伝え、医療機関と適切な対応が出来るよう取り組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者、ケアマネが医療機関との連絡を行うが、それに対する情報提供を行っている。入院時は頻回に面会を行い、安心感を持っていただき、病院関係者と情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「看取り」の契約を行っているが、医師が終末期と診断された時は家族と管理者でかかりつけ医の説明を聞き、家族が決められた事に添った対応をしている	入居時に看取りについてホームの方針を伝えている。その後、入居者の状態から家族との話し合いが必要と思われる時点で、担当医師からの説明と今後の事を含め家族の意向を確認して、看取りの契約書を交わしている。職員は本年度特に入居者の入退院が続いたことで、日頃の健康チェックや異常の早期発見が重要としている。	ホームの医療支援を長年担当する協力医の存在は、職員にとっても心強く、今後も定期的な看取り支援の勉強会に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡方法は確認しているものの、応急手当や初期対応の訓練は行われていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行われているが、地震や水害の訓練は書類での確認しか行われていない	年2回の火災訓練を実施しているが、地震や台風といった自然災害については、勉強会の中での机上訓練としている。平坦な土地柄これまでに風水害等による大きな被害はなかったものの、近年の自然災害は予想を上回るものであり、十分な備えが必要と思われる。関連施設での土嚢や備蓄の確保、ホームでは日々の火元チェックが行われている。	有事の際には地域の協力が不可欠と思われる。まずは訓練などの近隣への声掛けから防災への意識付けを図ったり、備蓄を関連施設に頼ることなく、ホームでも必要な物を検討し、備えておかれることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけと思いつくが、話しているうちに気語でなくなったりする。また、居室に入る時ノックを忘れていたりする	職員の守秘義務や入居者などの個人情報保護について、規則に則り徹底するように努めている。ホーム内の年間研修やグループホーム連絡協議会の外部研修に参加して、接遇やプライバシーについて学ぶ機会を持っている。しかしながら長い関係性が馴れ馴れしい言葉や接し方になっていることに対し、施設長を交えた会議がおこなわれている。	入居者との距離が馴れ合いになると、幼児語になったり、声の強弱や使うタイミングなどで不快感を与えかねない事を、今後も普段のケアの中で見直していけるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にする事が難しい方は、表情や行動で判断したり、わかりやすい言葉で説明し対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、支援していることもあるが、多くが職員側のペースになって支援している。「ちょっと待って」が多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には自分で服を選んでいただき、できない方は毎回同じ服にならない様気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の咀嚼力に応じた食事形態で食べられる	昼・夜の食事は副食(おかずや汁物・小鉢)などは、隣接施設で作られているが、炊飯はホームで行い、入居者に合わせてご飯の硬さを調節し2台の炊飯器で対応している。リビングから見える位置に小さな菜園をつくり調理に加えたり、入居者が下膳やテーブル拭き、おやつ作りに関わりながら食への興味を引き出し、食形態や食器を個別に選択している。	職員はテーブルごとに入居者の間に入り、食の進み具合を見たり、介助を行っている。高齢化とともに飲み込みやむせなどが心配され、今後も職員が目配りで楽しい食事時間を提供していただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気の把握を行い、食事制限のある方、アレルギーのある方等に気をつけ、一人ひとりの状態に応じた栄養、水分摂取の確保を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔ケアを行われる方に関して、口腔内の状態を観察し、それに合わせたケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後の排泄習慣や排泄パターンを把握して、残存機能を活かし、トイレでの排泄支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、事前の声掛けや誘導により、日中は尿意のない方へもトイレでの排泄を支援している。夜間帯にテープ式オムツやポータブルトイレを使用する方がおられるが、安眠への配慮やポータブルトイレへの移動を見守り、毎朝の洗浄により衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量の確認を行い、排泄パターンを把握することによってトイレへの誘導を適した時間に行っている。自力歩行できる人や歩行器使用の方達には館内歩行を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本として入浴日は曜日で決めているが、拒否があった時は無理に勧めず、時間をずらしたり、曜日を替えたりして支援している	週2回午前中の中の入浴が基本であるが、汚染時や外出前などに配慮して個別に応じている。湯舟に浸かれる方が徐々に少なくなっており、職員は入居者にゆっくり楽しんでもらうよう会話をしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態、体力に合わせて休息時間を取っている。夜眠れない方には、何が気になって眠れないのかを聞き取り安心して休んでもらうように傾聴している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握、確認し、確実な服薬を行っている。服用後、状態に変化が見られないかの確認も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで経験してきたことややりがいを見つけ、楽しみに繋げていけるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援での外出はあるが、毎日の希望に添った外出支援は出来ていない	ホーム周辺は田畑が広がり入居者の散歩コースとなっており、外出傾向にある方には、そのまま一緒に歩いて安心してもらうようにしている。衣類の購入などは家族の了承を得て入居者と出かけ、好みの物を選択されている。春の花見は入居者の食形態の違いなどから3日間に渡って出かけ、職員も1日は必ず同行できるようシフトの配置を行っている。また、職員体制の都合から6月のあじさい見学ができなかったものの、職員が自宅からあじさいを持ち寄りテーブルに飾り、鑑賞している。	外出が難しくなられた方もおられるが、今後も入居者の希望を聞きながら、家族の協力を得て、戸外に出る機会を持たれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	周りは認知症の方ばかりなので、基本お金を持たないようにしている。しかし、本人の安心に繋がれば困らない程度のお金を持っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいとの要望があれば、家族の方が電話に出られるような時間帯にかけて頂くようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険回避を一番に考え工夫している。ホールや居室内は季節の物や家族との写真などを飾り居心地の良い環境作りをしている	開設から15年、当時入居者の団欒の場となっていた畳の間も現在は入居者の高齢化とともに活用が難しくなっている。両ユニットが集合する広いリビングでは、入居者が思い思いにソファやダイニングテーブルに腰を下ろし、会話を楽しんだり昼食後の時間をゆっくりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観られる方は前の席、気の合った人同士は近くの席に座って頂くようにし、その他ソファには坐りたいところに自由に座って過ごしていただくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜具等使い慣れた物を使用したり、家具やテレビを設置したり、写真を飾ったりして居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している	入居時に家族に使い慣れた品の持ち込みを依頼しており、馴染みの小物や写真、テレビなどが持ち込まれている。季節ごとに必要な衣類の持ち込みを家族に依頼しているが、遠方の方には入居者の意向を聞きながら職員が準備している。お気に入りの折り紙を所狭しと飾られた部屋を、嬉しそうに案内される入居者の姿も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行きたい場所が自分の目で確認できるように文字や矢印で表したり、危険なものは排除し、自立した生活が送れるように工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(有明海ユニット)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は農業圏にあり施設の前には広々とした田んぼが広がり、田植えや稲刈りなど四季の移り変わりを感ずることが出来ます。玄関を入ると広い食堂兼居間があり食事をしたり会話を楽しんだり、自分の時間で自由に過ごしていただいています。外に出かける行事として、1月は地域の神社に初詣に行きます。おみくじを引くのが楽しみです。3月は町内の桜の名所に花見弁当持参で出かけます。梨の花も見学します。梅雨時は紫陽花見学に出かけます。館内行事は夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会を実施しています。利用者様の笑顔や笑い声が素敵です。日頃はお家族や友人、知人の訪問が多く、ご家族とのつながりを大切にしています。利用者様が安心して生活できる施設を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年10月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心がけてはいるが、実践へとつなげられているものは少ない		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所との付き合いは挨拶程度だが、「鹿島子供会十五夜綱引き」や「子供みこし」「敬老会」などには参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が限られているため活かす機会は少ないが、家族との交流は多く、理解支援の方法の共有は出来ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回「ざっくばらん委員会」を開催し、2か月間の行事や利用者の状況報告やスタッフの研修報告を行い、委員さんがわからない事等話し合っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	身体拘束に関しての施設の範囲などを相談している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会に参加し、身体拘束の弊害を理解している。出入り口は開放し、自由に出入りが出来る状態にしてある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や外部研修で学んでいる虐待が見過ごされることがないように、早めにスタッフ同士で話し合っただ虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所外での研修に参加し、職員会議時、全員が学ぶ機会を持ち、成年後見制度の説明が出来る様に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明をしている。改定があった場合は家族に説明を行い、書面にて承諾を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、入居者の近況を報告している。面会用紙を通じてまた口頭にて家族の意見、気持ちを知ることが出来、要望の解決に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティング時には、各自がきちんと自分の意見を言えるような雰囲気作りを行い、出た意見を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ボーナスの査定はきちんと行われている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加や勉強会への取り組みが行えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は研修会等の時と限られているためネットワーク作りは出来ていない。相互訪問も行えていない		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安要望を共有し、話を聞くことが出来ていて、信頼関係を築くことが出来る様に心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望には耳を傾け、職員間で情報共有し、信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望や思いを十分聞くことにより支援の見極めに取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を大切に、共に作業をしたり、意向を聞き、暮らしの中で関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、常に近況の説明をし、本人を支えていくための話し合いを心がけ、共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋、美容室、衣料品店との関係が途切れないように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をする時に隣に座る人、おしゃべりをする時同じソファに座る人等、時と場合を考え、利用者同士が支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも、見舞いや身の回りの世話、今後の相談など親身になり支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話等により本人が望んでいる暮らしを考え、支援するとともに自己の表現が困難な方については表情や行動からその思いを汲み取り、本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	信頼関係を築きつつ、日々の本人との会話の中で少しでも把握、理解が出来る様に取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけいろいろな角度から本人の様子観察を行い、また他スタッフとの情報交換も行いながら状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の職員会議等、一人ひとりのケアについて意見を出し合い、3か月に1回はモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌に記録し、バイタル表や排泄表に記録し、申し送り帳の記入で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族付添いの病院受診が出来なくなった場合は、スタッフが付き添いで受診したり、不穩時には車でドライブに出かけたりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の神社に初詣に出かけたり、地域の敬老会に参加したり、梨つくりをされていた方を梨園の見学に行ったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診を受け、体調不良時は速やかに病院受診が出来るよう体制を整えている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の定期往診時には、かかりつけ医の看護師に全員の情報を提供したり、看取り時には訪問看護師との共通のノートを利用し協働している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設からは介護要約書、医療からは診療情報提供書等のやり取りを行ったり、入院中には面会を多く持ち、その都度担当医師や看護師との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り」の説明をし、家族に施設でできることを十分に説明し、方針を共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、職員連絡網を作成、初期対応に当たれるような取り組みはあるが、実践力としては乏しい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回行っている。その他の災害訓練は書面でしか行っていない		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけが馴れ馴れしくなったり、目上であることを忘れて傷つけたりする時、他のスタッフがたしなめたりして人権を尊重した言葉かけを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状況や気持ちを把握し、気持ちよく話したり、本人の意思で動くことが出来る様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きがいつも遅い方や散歩をしたい方等、その方のペースに合わせてどう過ごしたいのか希望に添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り、爪切り、髪にシュッシュをしたりとその人らしい身だしなみとお洒落の支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った硬さや柔らかさ、食べやすい形態の食器の利用、飲み物も駆るだけ好みを重んじている。配膳、下膳、テーブル拭きも一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も一人ひとりに応じた量が確保できるように努めている。水分量は把握し把握し、脱水や体の不調につながらないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った歯ブラシや舌ブラシ、口腔スポンジ等を使用し、1日3回行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに1人ひとりの排泄パターンを把握している。日中のオムツ使用はできるだけなくて済むように支援方法を話し合っている。トイレでの排泄は残存機能を活かしたケアを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操やリハビリ体操、便秘がちな方の腹部マッサージなど行い、発熱や食欲不振にならないよう予防している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は一応決まっているが、利用者の希望や病院受診などのタイミングに合わせ、柔軟な対応を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は午前午後、昼食後、昼寝をしない方など様々だが、日中に活動し、夜は安眠できるよう、エアコンの調整など行って支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量に間違いのないよう確実な服薬を心掛けている。症状の変化を早期に発見できるように心がけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや歌が好きの方、踊りが好きの方、野菜や花作りが好きの方、コーヒーが		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日外出される方には付き添って外出している。馴染みの美容院や、衣類の買い物等本人や家族の希望に沿うようにしている。また家族と一緒に食事や墓参りなど行かれる。初詣や花見の外出機会を設けている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に所持金を博している。現在お金を所持している人は1名である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で自由に電話がかけられるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール等にはソファを4台置いたり、遮断カーテンの利用や空調の調整を行い、壁には折り紙で折った花を飾ったりして季節感を取り入れている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士がソファなどで一緒に過ごしたり、一人で過ごすのが好きな方が、居心地が良い場所になるような環境づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人の使い慣れた物、好みの物を持参していただき、できるだけ居心地の良いスペースになるように工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差も少なく、歩行訓練も安全に行われている。また車椅子の方も自走するなど自立した生活を送られている。トイレまで一→で場所を示すと誘導なしで自分でトイレに行ける。また部屋に番号と付けることで間違わずに自分の部屋に行くことができる		